

地域でいきいきと暮らすために

障がいのある人もない人も、地域の中で自分らしく安心して生活するためには、障がい者に対し社会全体で寄り添う支援の構築と、地域住民の理解と見守りが大切になります。

今回、越生町で障がい者を支援する、「入間西障害者基幹相談支援センター」、「越生町身体障害者福祉会」、「クローバーの会」の3団体のみなさんに、お話を伺いました。



入間西障害者基幹相談支援センターは、越生町、坂戸市、毛呂山町、鳩山町の4市町から「障害者等相談支援事業」を受託しています。障がいのある方やその家族などからの日常生活の悩みや心配事、将来の不安などについて相談に応じ、制度に関することや福祉サービスの利用について情報提供を行っています。

「障がいのある当事者と家族では、考え方が相違することがあります。家族の意見を一方的に当事者に押しつけることがないように、当事者の意見を尊重するため、私たちが当事者と家族をつなげる調整役になります」そう話すの

当事者の想いを家族や地域とつなぐ

入間西障害者基幹相談支援センター 黒岩明浩さん

は相談員の黒岩さん。

当事者がどういう性格で考えを持っているのかを引き出すため、黒岩さんは一人ひとり顔を合わせながら親身に対応しています。「障がいのある方と先入観を持って接するのではなく、悩んでいる方がたまたま障がいのある方だという認識で接しています。顔がわかる相手だとちよつとした電話相談もしやすくなると思います」。黒岩さんは、障がい者はもとより、行政機関や医療機関などたくさんの人に信頼されています。

「これからは地域の見守る目も大切です。困っている人がいたらぜひ教えてください。その人にとって大きな助けとなるかもしれません。」



入間西障害者基幹相談支援センター 4月に毛呂山町へ移転します

現在、坂戸市福祉センター内にある「入間西障害者基幹相談支援センター」の事務所が、4月から毛呂山町小田谷にあるワンダーハウス内に移転されます。

住 所 毛呂山町大字小田谷 30-1 (ワンダーハウス)

開設日 平日の午前9時～午後5時30分

※詳しくは役場健康福祉課へお問い合わせください。



越 生町身体障害者福祉会（会員65人）は、身体に障がいのある会員が喫茶店『福祉の店』の営業をはじめ、産業祭の出店やグラウンドゴルフでの交流などを行っています。

会長の落合さんは、20代のときに事故で右手の指4本を失いました。落合さんのように肢体が不自由な身体が障害者の一部で、会員の多くは心臓や腎臓に障がいのある高齢者で外見ではわかりません。

『福祉の店』（場所…うめその梅の駅、営業時間…午前9時～午後3時30分、定休日…火・金曜日（繁忙期は無休））では、コーヒーやおこせ福祉作業所のまんじゅうなどを販売しています。商品は100円や200円のものばかり。

あいさつ一つで距離がグッと近づく

越生町身体障害者福祉会 落合一恵さん

『福祉の店』も誰でも立ち寄りやすい店づくりを心がけ、今日もお客さんとの話に花を咲かせます。

「お客さんとは、お客さんと接したり体を動かしたりするの、リハビリの場となってます。近所の常連さんや観光客とのたわいのない会話が仕事の楽しみです」と目を細める落合さんに障がい者への配慮を伺うと、「気軽に声をかけてほしいですね。あいさつ一つで不安はなくなり、障がい者との距離を近づけてくれると思います」と話してくれました。



ク ローバーの会は、精神障がいのある人が自立と社会参加を図るためグループ活動を行う「ソーシャルクラブ」の活動を支援するボランティア団体です。ソーシャルクラブでは、月2回、町内外に散歩へ出かけたり、保健センターで書道やスケッチを楽しんだりしています。

代表の中條さんは、長年、病院の精神科に勤めていた経験のある看護師で、退職後は地域の人たちと関わりたいたいという思いから、クローバーの会に参加されました。豊富な経験と明るい性格を持つ中條さんは、クローバーの会のみなさんやソーシャルクラブのメンバーから、厚い信頼を寄せられています。



私たちが活動を楽しむことも大切なこと

クローバーの会 中條アサ子さん



「家族や病気のことで、プライベートなことまで踏み込むことはしません。私たちは、ソーシャルクラブの活動を一緒に楽しんで参加しています。買い物や道端でばったりあったときに、気軽に話せる地域のおばさんのような存在ですね」と、ソーシャルクラブのみなさんと楽しくコミュニケーションを図っています。

「ソーシャルクラブを卒業され働いている姿を見たり聞いたりすると、うれしく思い、同時にやりがいを感じます。クローバーの会は、看護師など専門の知識を持たない方でも参加できます。ぜひ一緒に活動しませんか（中條さん）」